

「教育県大分」 創造に向けた地域別意見交換会 in 由布 開催概要

[開催日：令和2年11月12日（木）]

【学校訪問①】 大分県立情報科学高等学校

【訪問者】 大分県教育委員会（工藤教育長、教育委員、理事、教育次長 他）

大分県立情報科学高等学校の校内には、大分県、大分市、オートバックスセブンの三者で開設したラボ（研究室）があります。ラボは「WEAR+i（ウェアアイ）コミュラボ」と名づけられ、オートバックスセブン社の展開するWEAR+iサービスを体験できるエリアを常設し、生徒がいつでも最新のICT機器や技術に触れることができる場が提供されています。当日は、授業参観と併せてWEAR+iコミュラボの施設見学を行いました。

日々の授業の中では、地域の課題を地元の高校生ならではの発想で解決するプロセスを学び、地域社会との連携・協働により、産業で必要とされるスキルを持つ人材育成を目指しています。今後は、高校生だけでなく、他市町村との連携を図りながら、小中学生への指導・支援の視野に入れて活動を展開していきます。



【学校訪問②】 由布市立挾間小学校

【訪問者】 大分県教育委員会（工藤教育長、教育委員、理事、教育次長 他）
由布市教育委員会（加藤教育長、教育委員、学校教育課長 他）

由布市立挾間小学校では、「子どもと教職員の意欲が湧いてくる学校」を目指し、地域との連携、指導技術のスタンダード化、特別支援教育の視点を重視した取り組みを進めています。

意見交換では、学校と地域や地元企業とのつながりや、幼稚園や中学校、行政機関と連携した特別支援教育の取り組み事例が紹介されました。

当日の授業参観では、「ねらい」に基づく「めあて」の設定と、「めあて」に即した「振り返り」になるよう、時間の設定や振り返りの視点の設定がされていました。



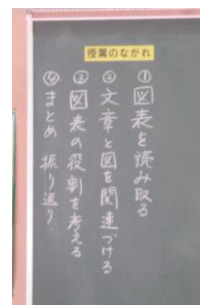
【学校訪問③】 由布市立挾間中学校

【訪問者】 訪問先②に同じ

由布市立挾間中学校は、「知識・技能の習得」と「思考力、判断力、表現力等の育成」を重点として、生徒による授業評価の分析やユニバーサルデザインの視点による授業改善に取り組んでいます。

授業参観では、「わかる」「できる」を実感することと対話と協働により問題解決的に学ぶために取り組んでいる、終末の5分間の「振り返り」時間の確保、UDの視点や対話的な学びが取り入れられた授業が見られました。

意見交換では、ICTの授業への活用事例や授業力向上のための振り返りシートの取り組みが紹介されました。



【意見交換会テーマ】 (1) 新学習指導要領に沿った授業改善を充実させる組織改革
～人材育成を意識して～

(2) 不登校対応の見直しについて

【出席者】 学校訪問②及び由布市立小・中学校長、学校支援センター所長
(小学校2校、中学校2校)

意見交換会では、市全体の取組状況の説明の後、各学校長から自校の現状・課題についての説明も交えながら2つのテーマについて意見交換を行い多数の取組を紹介いただきました。

(1)新学習指導要領に沿った授業改善を充実させる組織改革～人材育成を意識して～

- ▶由布市ではこれまで学力向上支援教員や指導教諭を中心とした学力向上対策を行ってきたが、学年や教科によって学力差が大きいことから、教職員一人ひとりの資質能力の向上が課題と捉え、組織的な指導・支援の取り組みを実施。
- ▶授業改善のシステムを構築するため、市教育委員会が主催する「市教研」を開始。市全体で共通のテーマによる研究を行い、全ての教科部会において指導案や単元プランの作成などの支援を行っている。
- ▶授業力のスキルアップのため、県・市の指導主事による授業観察や児童生徒からの授業評価による振り返りを活用。つけたい力をはっきりさせて授業に臨むことができ、児童生徒の学ぶ姿勢やグループで話し合っ解決していく力が向上。



(工藤県教育長)

教師の授業スキルの伝承の工夫が見られる。今年度中に1人1台端末が整備されてくるので、その効果的な活用が求められる。

(2)不登校対応の見直しについて

- ▶これまでは特別支援学級の新増設による個別の対応を行ってきたが、近年増加している不安傾向の強い児童生徒への対応として、小学校から人間関係づくりプログラムを導入。来年度には全校で実施予定。
- ▶特別支援教育コーディネーターによる個別の教育支援計画や指導計画の見直しや、悩んでいる児童生徒を早期発見するためのQ-U調査結果をもとにした学級づくりなど、組織的、計画的に取り組んでいる。



(加藤市教育長)

由布市のためにいただいたご意見を真摯に受け止め、市や学校の取組を深化充実させ、さらなる成果につなげたい。

【主な意見】

- ▶若手教員の育成や授業評価の取り組みを市全体に広げてほしい。授業改善では、児童生徒につけたい力を身につけさせることができたかが重要であるため、PDCAを確実に行ってほしい。
- ▶中1ギャップへの対応など、小中連携した不登校対応が進められている。各学校では教育相談コーディネーターが中心となり不登校生の家庭に関わっているが、学校に相談しづらい家庭への支援についても積極的に行っていく必要がある。

【意見交換を終えて(工藤県教育長から)】

新学習指導要領に沿った授業改善や不登校対策に関する取り組みについて有意義な意見交換をしていただきました。これから教育環境が変わっていくことを前提とした授業改善を進めていく必要がありますが、取り組みの結果、子どもたちの学力にどう成果を出していくかが重要です。また、大分県では不登校の児童生徒が増加傾向にあり、学校に来られない子どもたちの社会参加について、今後良い例を出していただきたいと思います。